

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社
create coating solutions

2025年 8月8日

第1四半期業績

単位：百万円

	2025.6	2024.6	前年同期比	
	(1Q-FY26)	(1Q-FY25)	増減	増減率
売上高	1,359	1,195	164	13.7%
営業利益	156	7	149	—
(営業利益率)	11.5%	0.6%	—	—
経常利益	164	34	130	369.7%
当期純利益	158	43	115	263.4%
1株あたり 四半期当期純利益(円)	19.98	5.50	14.48	263.4%
加工高	1,105	1,024	81	7.9%

2025.3	前四半期比	
(4Q-FY25)	増減	増減率
1,606	△ 247	—
38	118	307.2%
2.4%	—	—
28	136	474.3%
17	141	793.6%
2.24	17.75	793.6%
1,028	77	7.5%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

財務概要

単位：百万円	2025.6	2025.3	増減
流動資産	10,502	10,744	△ 242
現金・預金	3,053	3,029	24
受取手形・売掛金	4,185	4,554	△ 369
電子記録債権	595	613	△ 18
棚卸資産	2,596	2,466	130
その他	72	80	△ 8
固定資産	5,529	5,614	△ 85
有形固定資産	2,089	1,968	121
無形固定資産	154	155	△ 1
投資その他	3,285	3,489	△ 204
合計	16,032	16,358	△ 326

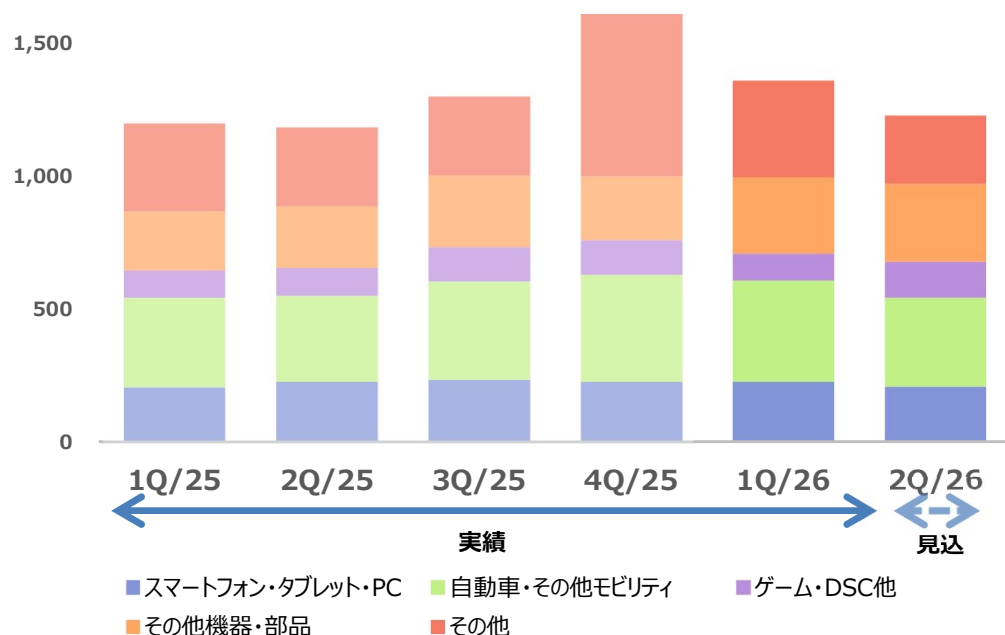
単位：百万円	2025.6	2025.3	増減
負債	6,755	7,253	△ 498
支払手形・買掛金	3,903	4,252	△ 349
借入金等	1,825	2,030	△ 205
その他	1,027	971	56
純資産	9,276	9,104	172
株主資本	8,815	8,657	158
評価・換算差額等	461	447	14
合計	16,032	16,358	△ 326

自己資本比率	57.9%	55.7%	2.2pt
1株あたり純資産(円)	1,172.72	1,150.97	21.74

四半期売上実績

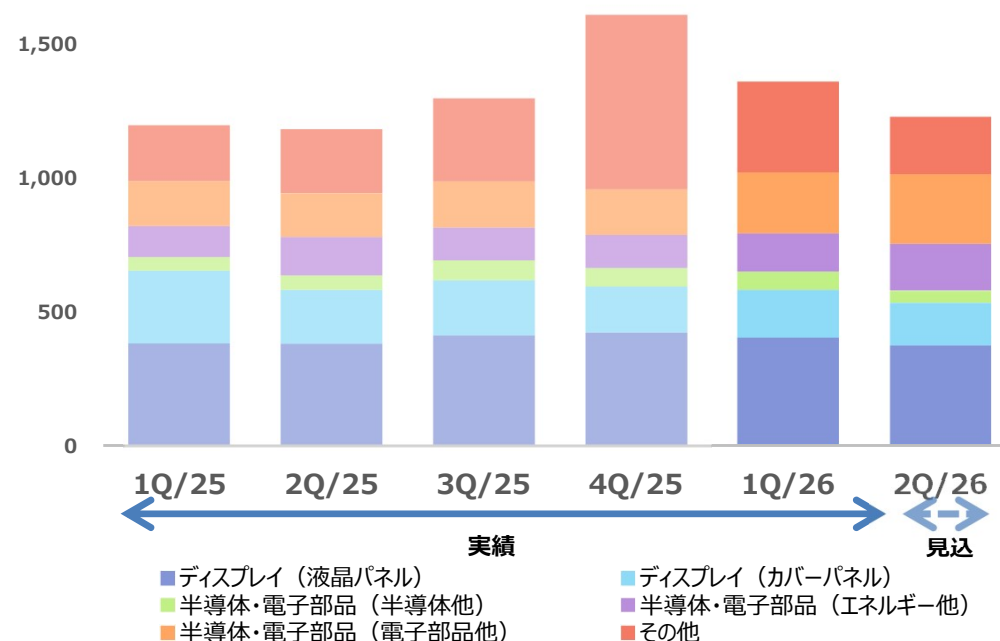
最終製品別売上高推移

百万円



品目別売上高推移

百万円



◆ディスプレイ（液晶パネル）

車載向けやV R 機器向け液晶ディスプレイパネル用帯電防止膜の受注が安定的に推移

◆半導体・電子部品

テストウェハーおよび次世代エネルギー向け受注が安定的に推移
監視カメラ向けや産業用プリンターヘッド向け受注が増加

◆ディスプレイ（カバーパネル）

前期に受注があった製品が企画台数に達したことや、中国国内向け製品についても対応車種の販売低迷の影響を受けたことから受注は大幅に減少

◆その他

g.moth®やg.slip®などのナノ構造体製品の受注が安定的に推移
テスト基板などの受注が増加したことに加え、成膜加工関連部材の販売も大幅に増加

2026年3月期 業績見通し

2025年5月15日に公表いたしました2026年3月期の第2四半期と通期業績予想について、最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

単位：百万円	2026.3					2025.3
	通期計画	H 1 計画	H 2 計画	前期比		実績
				増減額	増減率	
売上高	5,000	2,550	2,450	△ 280	—	5,280
営業利益	200	175	25	△ 123	—	323
営業利益率	4.0%	6.9%	1.0%	—	—	6.1%
経常利益	235	193	42	△ 131	—	366
当期純利益	223	187	36	△ 137	—	360

加工高	4,200	2,100	2,100	△ 24	—	4,224
研究開発費	300	—	—	△ 18	—	318
設備投資額	1,000	—	—	277	38.3%	723
減価償却費	210	—	—	65	44.8%	145

経営環境

今後の経済見通しにつきましては、景気は引き続き緩やかな回復傾向にあるものの、地政学的な緊張や米国の貿易政策による国内経済への影響が懸念されることから先行きは依然不透明な状況が続いており、当社の主力製品である薄膜製品は、最終製品の需要動向やサプライチェーンの変化に大きく左右されるものと予測されます。また、デジタルトランスフォーメーション（DX）、人工知能（AI）、ロボティクスの進展により、ビジネスモデルや産業構造そのものが大きく変革され、生産性の向上など、経済全体にも大きな影響を及ぼすことが期待されます。

対処すべき課題

このような経営環境の下、当社はこれまでマーケットインとプロダクトアウトの戦略に基づき、「薄膜技術」を強化し成長を図ってまいりましたが、今後はこの経営志向をさらに発展させ、従来の薄膜技術に加え、顧客ニーズに応じた生産技術の強化と経営資源の最大活用によって顧客の利便性および当社の収益性の向上を目指す「薄膜技術＋生産技術」という当社の強みを活かし企業成長に取り組んでまいります。当社が現在認識している課題と対策は以下の通りです。

1. コア事業の強化

当社の主力製品であるディスプレイなどの薄膜加工製品については、既存設備を有効に活用するとともに、原価低減と価格戦略の見直しを進めることで、収益性および資産効率の改善を図っております。

2. 戦略事業、新規事業の強化

成長が期待される製品・市場に向けて、これまで培ってきた薄膜技術および生産技術を活かし、顧客に対して高い利便性を提供することで事業の拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

3. 人的資本の強化

教育制度および評価制度の整備を進め、あるべき姿の実現に向けた人材の確保と組織能力の向上に取り組んでおります。

また、社員がいきいきと活躍できる職場環境の整備を目指し、企業風土改革にも継続して取り組んでおります。

4. 経営基盤の強化

経営の高度化を実現するため、デジタル基盤の強化を進めております。

あわせて、財務基盤の安定と資本効率の向上を図りつつ、成長領域への戦略的投資を推進しております。

・ 情報提供の目的

当サイトの目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。掲載されている情報は、インターネット上で簡便にご参照いただくために作成されたものです。当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当サイトのご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

・ 将来予測に関する考え方

当サイトに掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。

・ 投資判断に対する考え方

投資に関する最終的なご決定は、当サイトの情報に全面的に依存することはお控え頂き、ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。

・ 情報内容変更等の可能性

当サイトまたは当サイト上のコンテンツは、予告なく変更、修正、削除、中断することがあります。当社は、サイトに掲載された情報を更新する義務を負うものではなく、その約束をするものではありません。当サイトのいかなる情報についても、常に最新情報に反映されるものでないことをご了承ください。